

神戸大学大学院国際文化学研究科『国際文化学』

査読要領

1. 査読の目的

神戸大学大学院国際文化学研究科紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）は、『国際文化学』に掲載される原稿の学術的水準を担保するため、査読制度を置く。

2. 査読者の選定

編集委員会は、投稿原稿の内容をふまえ、研究科内外の適任者 2 名に査読を委嘱する。委嘱があった場合、研究科教員は、正当な理由がない限り、これを受託しなければならない。なお、査読者 1 人あたりの査読原稿数は 2 本を超えないこととする。また、投稿原稿著者の主指導教員は査読に加わらないものとする。

3. 査読の基本方針

査読者は、『国際文化学』編集規程」第 1 条に定められた本誌の刊行趣旨、および、本要領第 1 条に定められた査読の目的を理解した上で、担当原稿の査読を行うものとする。

4. 査読の内容

査読者は、査読意見書のフォーマットに従い、下記の 5 観点についてそれぞれ点数評価（1～5 点）を行い、あわせて、原稿に関する査読意見を箇条書きで執筆すること。

- （1）独創性（独創的な知見が示されているか）
- （2）論理性（論理的・学術的な立論がなされているか）
- （3）構成・体裁（学術論文として相応の構成・体裁を持っているか）
- （4）研究水準（先行研究に比して相応の研究水準を持っているか）
- （5）適合性（総合的に判断して本誌原稿として適当であるか）

5. 査読のスケジュール

査読者は、別途指定された締め切りまでに、作成済みの査読意見書を遅滞なく編集委員会に提出するものとする。

6. 原稿・査読意見書の授受

原稿および査読意見書はパスワード保護された電子ファイル媒体で授受を行うものとする。

7. 再審査

「修正条件付き採択」と判定された原稿が、修正の後に再提出された場合、当該原稿の査読者が再審査を担当するものとする。

8. 謝金

研究科所属教員が査読者となった場合、謝金は支給されない。研究科外の専門家に査読を依頼した場合は、規定額を謝金として支給する。

9. 査読者名の公表

査読者名は公表しない。ただし、本誌刊行後 10 年以上が経過した後に、原稿著者から文書による請求があった場合は、請求者本人に対して当該原稿の査読者名を通知する。

10. その他

この要領の改正は編集委員会が行う。査読者は、原稿募集時点での最新版の査読要領ならびに査読意見書フォーマットに基づいて査読を行うこととする。

附則

この要領は、平成 24 年 8 月 1 日より施行する。